



平成 20 年 7 月 25 日

各 位

東燃ゼネラル石油株式会社
東京都港区港南一丁目 8 番 15 号
代表取締役社長 鈴木 一夫
(コード番号: 東証第一部 5012)
問合せ先:
エクソンモービル有限会社
広報渉外部 (Tel: 03-6713-4400)

東燃ゼネラル石油(株) 平成 20 年 12 月期中間業績予想の修正に関するお知らせ

東燃ゼネラル石油株式会社は、平成 20 年 2 月 14 日に発表した平成 20 年 12 月期 中間期(平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 6 月 30 日)の連結および単体業績予想を以下の通り修正しましたのでお知らせします。

1. 平成 20 年 12 月期 中間業績予想の修正

連結業績予想:

(単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間(当期) 純利益
今回修正予想(A)	16,926	▲23	38	59
前回発表予想(B)	17,500	250	260	160
増減額(A-B)	▲574	▲273	▲222	▲101
増減率	▲3%	-	▲85%	▲63%

(B)平成 20 年 2 月 14 日発表

単体業績予想:

(単位: 億円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間(当期) 純利益
今回修正予想(A)	16,839	▲156	▲52	17
前回発表予想(B)	17,000	130	170	120
増減額(A-B)	▲161	▲286	▲222	▲103
増減率	▲1%	-	-	▲86%

(B)平成20年2月14日発表

2. 修正の理由

平成20年12月期の中間期連結営業利益は、前回予想時より273億円減少し、23億円の赤字となる見通しです。今回の修正は主に以下の要因によるものです。

- 石油製品におけるマージンは前回予想よりも大きく低下する見込みです。これは、原油価格の急激かつ大幅な上昇に伴うコスト上昇が、製品販売価格に十分に反映されなかったことによるものです。2008年6月におけるドバイ原油FOBスポット価格は2007年12月時点と比較するとバレル当たり42ドル上昇しました。
- 業界他社では一般的に、会計上、原油調達コストを原油がわが国に到着した時点で認識するのに対し、当社は積荷時点でこれを認識するため、原油価格の上昇を他社よりも約1ヶ月早く認識することになります。このため、期中の原油価格の上昇がそのまま1-6月期の業績に反映されました。1-6月期におけるこのマイナスの影響は、ドバイ原油FOBスポット価格を基準とした場合、業界他社で一般的に採用されているコスト認識方法(到着ベース)と比べ、約500億円であったと推測されます。
- 本年2月時点での予想では、在庫評価の影響を見込んでいませんでしたが、後入先出法に基づく在庫評価の結果、約290億円の利益要因(キャッシュ・フローへの影響はなし)が発生する見込みです。
- 石油化学部門においても、原油コスト高騰に伴う原材料費の上昇が製品販売価格の上昇を上回り、主として芳香族におけるマージンが前回予想時を下回りました。

また、平成20年12月期の中間(当期)純利益は、本年2月時点での予想より101億円減の59億円となる見通しです。通期業績予想に関しては、8月の中間決算発表の時点で再度検討します。

3. 配当見通し

1 株あたり中間期 19 円、年間 38 円の本年 2 月時点の配当予想に変更はありません。

以 上